

あなたは、どこにいるのか

創世記 3章8－13節

はじめに

「ソフィーの世界」いう本がベストセラーになったことがありました。これは、哲学を分かりやすいことばで書いたものです。その初めの部分に、「この世界はどこから来たの」という問いがあります。何も無いところからこの世界が出来るはずはない。何も無いのだから、何もなければ何もできない。では、神が造ったのか。では、神はどこから来たのか。神を造ったのはだれか。でも、この問いは、限りなく続きます。その神を造った神はだれか。世界を造った神の造った神を造ったのはだれか。そこには答えがありません。

では、聖書はどう教えているのでしょうか。聖書は、世界は神が造ったと教えます。そして、その神は「永遠の方」だということです。永遠の方であれば、そこで終わるわけですね。つまり、神を造ったものはない。神は、自ら存在する方であり、始めもなく終わりもない方なのです。神は「わたしはある」という者であると言われました。聖書の神は、このように、自ら存在される、永遠の神であり、世界はこの方のことば、つまり、ご計画とご意志によって造られたのです。

神は、人間を「ご自身のかたちにお造りになり、造られたものの支配」をお命じになりました。また、神の命令に従うことをお求めになりました。しかし、人間は神に背き、「してならない」と言われたことをしてしまいました。神に罪を犯したのです。人間の混乱と不幸の原因がここにあります。

その罪を犯した人間アダムに神は、こうお語りになりました。「あなたは、どこにいるのか」。罪を犯したアダムに、神が声をかけられています。罪を犯したアダムが神に救いを求めて、声をかけたではありません。

アダムはどうしたのでしょうか。神の声を聞いて「神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した」のです(8)。そのアダムに主は、「あなたは、どこにいるのか」と呼びかけられたのです。

1. 「あなたは、どこにいるのか」という主の呼びかけは、「なぜ応えないのか」と聞いています。

神と人とは、親しくしていました。神は人に語り、人は神に応えていました。神が人に語り、人が神に応じなかったことはなかったのです。しかし、今度は違います。人は応えません。神の御顔を避けて隠れています。

適用：今日でも、人は神の呼びかけを聞いています。神を知らない人はいません。神は、ご自身のことを明らかにしておられます。

では、神はどのようにして、ご自身を明らかにされたのでしょうか。それは、神がお造りになったこの世界は、神のことを現しているのです。この世界が一つも狂いのないこと、美しいことなどに人々は驚き、神を認めて来ました。

また、私たちの良心は、神の存在や、何が良いことで、何が悪いことかを知っています。

どうして、悪いことが分かるのでしょうか。それは、悪が分かるということは、絶対的な善があることを分かっていることで、絶対的な善である神の存在を意識しているということです。

もう一つは、神が人間に語りかけておられることです。この神のことばによって神を知ることができるのです。

しかし、そのように神を知っていながら、人々は神から身を隠しているのです。神を知らないのではなく、知っていながら神を拝まず、神に仕えようとしなないのが現実です。実は、この事こそ、罪の源であり、その罪が人間を苦しめているのです。

2. 「あなたは、どこにいるのか」という主の呼びかけは、罪を自覚させています。

なぜ、神の御顔を避けて隠れるのか。何をしたのか。神が守れと命じたことを守らなかったのか。人は、罪を犯しているので、神のもとから自分を隠すのです。神の前に出ることを恐れます。

適用：人は、自分の罪を知っています。人は、神を知っているだけではありません。自分が神の前に悪いことをしていることも知っています。

自分が罪人だとは思わなかったという人はいるかもしれませんが。しかし、聖書を読んで教えられると、自分が罪を犯していることを認めます。

普段、罪の自覚のない人に、罪の自覚を与えるのは何でしょうか。それは神のことばです。「あなたは、どこにいるのか」という主の呼びかけは、自分がどこにいるのか、何をしたのかを、私たちに教えるのです。

それは、神が「してはならない」と言われたことをしてしまったこと、神の命令に背いたことです。聖書で言う罪とは、いわゆる悪とは違います。それは、神の戒めを破ることです。神の戒めを基準としないなら、罪がわかりません。

例えば、偶像を拜んでも罪とは思わない人がいます。日曜日に神を礼拝しなくても罪とは思わない人がいます。それは、この世の基準では罪とは思わないからです。

しかし、神の戒めからすれば、罪なのです。

3. 「あなたは、どこにいるのか」という主の呼びかけは、神が人を捜しておいでになることを示しています。

神は、人が何をしたかをご存じです。そして、神は人のしたことについて、深く悲しんでおられます。神が人をお造りになりました。

人は神のかたちに造られ、最高の使命を与えられました。しかし、アダムとイブは神に背き、惨めな姿をさらしています。

神は、アダムをお見捨てにはなりませんでしたが、深く心を痛めておられます。

そして、アダムに罪を自覚させ、神のもとに帰ってくるようにと、神の気持ちを伝えているのです。

適用：神は、今も私たちが捜しておられます。主イエスは、こう言われました。「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです」（ルカ 19:10）。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くためにきたのです」（マタイ 9:13）。

神は、私たちが救おうとされています。神は、そのために、預言者たちを通して神のみこころを伝え、最後に神の御子イエス・キリストをお遣わしになりました。御子は、神の救いを成し遂げるために、おいでになり、十字架におかかりになって私たちの罪をその身に負われました。御子の死によって、私たちの罪は、神の前に処理されたのです。御子は復活し、今、天の神の前で私たちのためにとりなしをしておられます。私たちが救われる道が完成したのです。

4. 「あなたは、どこにいるのか」という主の呼びかけは、神の呼びかけに応えることを人に求めています。

この呼びかけにアダムは答えました。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました」（10）。

この呼びかけがなければ、アダムは答えることが出来なかったでしょう。この呼びかけが、アダムに、立ち返る機会を与えたのです。

適用：今日、神は私たちが招いておいでになります。そして、それに答えることを求めておいでになるのです。「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とと

もに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

神は、私たちが神を知ること、罪から救われることを望んでおられます。神は、一人の滅びるのも望んでおられません。神はあらゆる機会を通して、私たちが神のもとに帰るように、呼びかけておられます。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒 16:31）。

「主を信頼する者は、失望に終わることはありません」（ローマ 10:11）。

「主の御名をを呼び求める者はだれでも救われます」（ローマ 10:13）。

それに応えることが大切です。どうすればよいのでしょうか。

アダムは、自分のしたことを告白しました。私たちも、自分の罪を告白し、悔い改めましょう。

そして、主イエス・キリストが私たちの罪のために死んでくださったこと、復活して私たちを救ってくださることを信じましょう。

そうすれば、あなたは救われます。

主は、「あなたは、どこにいるのか」と呼びかけておられます。

結論

「あなたはどこにいるのか」。神から離れて身を隠しても、あなたは「神の前」にいるのです。神から隠れることは出来ないのです。今、あなたは神の前にはいるのです。自分では隠れているように思っても、神から隠れることはできません。神は、あなたを呼び、神の前に出てくるように求めておられます。今日から、神から隠れる生活ではなく、神の前に出て、神とともに生きる道を選びませんか。今がその時です。